



経済産業省の調査によると、大分県内のガソリン小売価格は3月から9週連続で下落しています。

# ガソリン安いけど… 県内9週連続で下落

大分県内のガソリン小売価格が下がっている。経済産業省の調査によると、店頭平均は3月から9週連続で下落し、レギュラー1リットルあたり約20円安くなった。新型コロナウイルス感染拡大による世界的な原油需要の急減が理由。消費者や事業者は歓迎するものの、外出自粛ムードが続く中では車を使う機会も限られ、喜び半分といったところ。ガソリンスタンドは売り上げの減少に苦しんでいる。



車に給油するガソリンスタンドの従業員＝18日午後、大分市内

① ガソリンの価格が下がった理由は何ですか？

.....

② 見出しの○の部分に入る言葉を考えてみよう。

消費者 移動自粛で○○○○  
スタンド ○○○○が減り悲鳴

③ 価格が下がってもガソリンの売り上げが減っているのはなぜでしょう？

.....

.....

.....

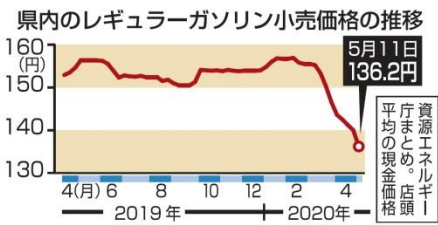
.....

.....

.....

経済産業省資源エネルギー庁の調査によると、県内のレギュラー1リットル当たりの現金価格は136・2円（11日時点。過去1年間で最も高かった7月10日の156・9円から20・7円下がった。2017年9月以來2年8カ月ぶりの水準。マイカー通勤の人たちは好意的に受け止めている。大分市中央町の歯科医院に勤める木村忠夫さん(69)は「今までが高過ぎだった。安いに越したことはない。バスが使う軽油も下落。コロナの影響で乗客が減って大変厳しい。地域の足を守るために一般路線は運行を続けており、燃費を抑えられるのは助かる」と話す。ただ、メリットを十分に

## 消費者 移動自粛で○○○○ スタンド ○○○○が減り悲鳴



感じられない消費者も少なくない。県内への緊急事態宣言は解除されたものの、県境をまたぐ移動は5月末まで自粛が求められている。感染の第2波を警戒し、外出を控える人は依然として多い。

同市小原の歯科技士、石川洋二さん(64)は「今は県外に出掛けられない。自由に動けるようになった時、安いままならいいけど」と

と思いは複雑だ。企業も休業やテレワーク（在宅勤務）を実施。営業訪問を控えるなど、「ヒトとモノ」が動かない状況が続く。

県内に複数のガソリンスタンドを展開する会社（同市）のマネジャーは「3月下旬以降、前年に比べて売り上げが約3割減っている。長引けば体力の乏しい店舗から閉店に追い込まれるだろう」と厳しい表情を浮かべた。

今後は上昇に転じるとの観測も出ている。調査元の石油情報センター（東京）によると、直近の原油価格

は上がっており、ガソリン小売価格などにも反映される可能性がある。世界各国で外出制限が緩和されつつあり、需要回復の期待が高まっているという。

（渡辺天祐、船山善弘）

④ 調査元の石油情報センター（東京）は今後の動きをどうみていますか？